

台湾♡大槌町 感謝を伝え、交流を深める



東日本大震災津波の復興支援や子どもたちの進学支援など、当町に多大なる支援をいただいた「復興ありがとうホストタウン」の台湾。この特集では、台湾からのこれまでの温かい支援と、当町との深い関わりを振り返ります。

2月1日（木）、台湾・台北市で漫画やアニメを発信する国際イベント「2024台北国際動漫節」が行われ、大槌町長を含む4人が台湾を訪問し、大槌町ブースを出展。大槌町のオリジナルアニメ「大槌カイ」などを通じて、町のPR活動を行いました。

当日、日本主題館で行われたステージイベントでは、現在制作中の町オリジナルアニメの村長や、大槌カイに扮した現地コスプレイヤーも登場。イベントの中で行われたクイズ大会では、会場に訪れた約200人に、大槌町に関連したクイズを楽しんでもらい、そのクイズを通して町の魅力を発信してきました。

台湾とのつながり

台湾は、東アジアにある面積約3万6千平方キロメートルの島。日本から、海を隔てて南西に位置。20

東日本大震災津波から10年の節目を迎えた令和3年に、日本漫画家が、台湾からの支援に改めて感謝を伝えるため描いた108枚の色紙。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう最中の令和4年、日本から台湾に新型コロナワクチンが供与され、台湾漫画家が日本に感謝を伝えるため描いた120枚の色紙。お互いの感

20年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の「復興ありがとうホストタウン」の取り組みの中で、大槌町が登録している友好国の一つです。

台湾との交流のきっかけは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。この震災津波は、大槌町に家屋の全壊半壊4,167棟、死者行方不明者1,286人も未曾有の被害をもたらしましたが、町の復興までの道のりでは、新しい多くのつながりが芽生えました。

町に届いた温かい支援

台湾において赤十字活動を行う組織の「中華民国紅十字會」からは、震災後、海外の被災者を支援する目的の寄付金「海外救援金」を活用した、約14億円もの義援金をいただきました。震災津波によって住む場所を失った多くの被災者に、1日でも早く

謝の思いから描かれ、展示された28枚もの色紙は、台湾と日本が互いに認め合った象徴ともいえます。支援を送る側と受ける側の関係だけでなく、更に交流を深め、互いに理解しあい支え合う「朋友」の関係構築を築き上げましょう。



御社地町営住宅の入口に設置された、台湾への感謝を示す看板

心から休むことができる住居を提供するため、この義援金は、町内に建設が計画されていた公営住宅656戸の整備費用などに充てられました。台湾からの支援への感謝を示す看板や石碑などが建てられています。

財団法人台湾慈濟慈善事業基金会は、慈善事業を中心に活動し、災害発生時には支援活動も行う団体。震災直後には、大槌町の被災世帯に義援金を送る支援活動を行いました。被災者支援の縁もあり、大槌町は、「慈濟新芽奨学金」の募集を、平成

つながりの芽を 交流で育む

30年に初めて開始。これまで6年間にわたり、町内に住む10人の子どもの将来のため、進学費用を支援していただいています。

町長ら4人は、今回の「2024台北国際動漫節」ブース出展に合わせ、これまで支援いただいた中華民国紅十字會や台湾慈濟慈善事業基金会に改めて感謝を伝えるとともに、町の復興状況などを報告しました。また、台湾との交流を広げるため、日本台湾交流協会や旅行代理店3社を訪問し、町の取り組みを町長自ら説明しました。

3月11日（月）で、東日本大震災津波から13年目を迎えます。これまでの道のりを振り返ると、国外からも多くの温かい支援をいただき、今があります。この貴重なつながりは「感謝」のみで終わるものではありません。

令和5年4月8日、おしゃっちで行われた『漫画の絆』台日色紙展。



大槌町を訪れた中華民国紅十字會の皆さんと、公営住宅入居者との交流の様子 (2020年2月)